

～がんばってますか～

VOL.17 組合長です!

阿部組合長みずからが現場に出向き、組合員のみなさんとの膝を交えた対談で農業の今や地域の声、JAへの「直言」をお聞きしてエールを送ります!



(佐藤) 米のフレコン設備は、JAの「フレコン集荷支援策」を使い平成28年に設置しました。

(組合長) この支援対策は集荷向上を目的に始めました。米販売の契約を進める上で生産者から出荷予約をいただき、出来秋は集荷100%以上を目指しています。この目標を達成するために、水田面積が大きい生産者の協力を得なければいけません。支援対策により作業効率向上に貢献できるものと思っています。

(佐藤) 紙袋を延々と結び、指先が痛くなることから解放されました。近年、生産者同士の共同作業が少なくなったことで、人間関係が希薄になり「自分さえ良ければよい」という意見が時々、耳に届くようになったことが気にかかります。

(組合長) 「俺だけ・今だけ・金だけ」という言葉を聞いたことがありません。

(佐藤) ことわざみたいですね。**(組合長)** 水田面積は15haと大きいですね。奥さんの明美さんと2人でやっているのですか?

(明美) はい、そうです。

(佐藤) 苦労はかかっていると思います。協力してやっていますか?

(組合長) 「千俵の会」会長に就任して初年度目ですね。

(佐藤) 法人と個人242人が所属しており、面積は合わせて約3千haです。JA管内の水田面積の約3割になります。

(組合長) かなりの面積ですね。**(佐藤)** 労働力不足が懸念される将来に向けて何をすべきか、会で情報交換をしながら活動しています。8月の「千俵の会」



努力不足もありますが、満足にできるかわかりませんが、**(組合長)** だからこそ、新技術や直播など組み合わせ、複合的な選択肢が必要なのだと思います。

(佐藤) ところで、JAで肥料の銘柄を集約していますが、一発肥料もメニューに入れてもら

今月の直言

【松山・土淵】

佐藤修さん (写真左上・文中 佐藤)

佐藤明美さん (写真左下・文中 明美)

佐藤修さんは昭和29年生まれ。水田面積は約15.7ha。内、主食用米9.4ha、加工用米2.1ha、飼料用米1.2ha、そば(でわかおり)2.4haを栽培しています。酒田市土淵で奥さんの明美さんと、両親、息子夫婦、孫の7人暮らし。庄内みどり農協「千俵の会」会長、酒田市農業委員、生産組合長として活躍しています。

一発肥料を慎重に協議しながら、JA全農山形と連携し検討していきます。

(佐藤) 集荷業者の話になりますが、水田面積が大きい生産者には、集荷業者が入ってくる時があります。それを防ぐことはできません。生産者一人ひとり意識になります。最終的には価格での判断となり、そこが問題と考えています。

(組合長) 卸、小売り、外食産業などと各々みんな繋がりを持っていますが、平成30年産からは、さらにどう信頼を築くかが大切です。価格だけで安いから、又は高いから売るといった、まさに「俺だけ・今だけ・金だけ」商売では将来に繋がらず、生き残ることができません。

(佐藤) 加工用米は複数年契約が終わりでしたが、実需先から安定生産を求められていると聞いています。

研修では水稲育苗の新技術を勉強しました。水稲育苗にかかる労働時間とコストの削減はとても重要であると考えています。**(組合長)** 松山地区では、そばや柿の栽培をしています。他に畑物はできないですか?

(佐藤) 我が家で水稲育苗期間中に畑物の播種を行うことは、

いたいです。**(組合長)** 一発肥料は年々使用する生産者が増えていきます。今後も省力化や労力軽減を考えると需要が増えることが見込まれます。従来の肥料予約注文書には載せていますが、集約銘柄のメニューについても、土壌条件に合った高成分かつ低コストの